

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	専修学校ロシア極東大函館校
設置者名	学校法人 函館国際学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
文化・教養	ロシア語科	夜・通信	1584 単位時間	160 単位時間	
	ロシア地域学科	夜・通信	2650 単位時間	320 単位時間	
		夜・通信			
		夜・通信			
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.fesu.ac.jp/about/syllabus/

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	専修学校ロシア極東大函館校
設置者名	学校法人 函館国際学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

[https://www.fesu.ac.jp/wp-content/themes/fesu-theme/assets/pdf/%E6%94%B9%E8%A8%82%E7%89%88%E5%BD%B9%E5%93%A1%E5%90%8D%E7%B0%BF\(R5.5.24\).pdf](https://www.fesu.ac.jp/wp-content/themes/fesu-theme/assets/pdf/%E6%94%B9%E8%A8%82%E7%89%88%E5%BD%B9%E5%93%A1%E5%90%8D%E7%B0%BF(R5.5.24).pdf)

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	元会社役員	R4. 11. 27～ R7. 11. 26	学校運営状況への チェック機能
非常勤	会社役員	R4. 11. 27～ R7. 11. 26	学校運営状況への チェック機能
非常勤	会社役員	R4. 11. 27～ R7. 11. 26	学校運営状況への チェック機能
非常勤	団体職員	R4. 11. 27～ R7. 11. 26	学校運営状況への チェック機能
非常勤	団体役員	R4. 11. 27～ R7. 11. 26	学校運営状況への チェック機能
非常勤	元教諭	R4. 11. 27～ R7. 11. 26	学校運営状況への チェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	専修学校ロシア極東大函館校
設置者名	学校法人 函館国際学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
○本校においては、ロシア語科の一部科目を除き、選択科目がないため、シラバスは講義の履修の参考になるものではない。	
○シラバスには共通フォーマットがあり、以下の項目を日本語で表示している。	
<ul style="list-style-type: none"> ・科目の基本情報 (教科名・履修年次・実施学期・時間数・期間) ・担当教員 ・教科書や補助教材・参考書など ・学習到達目標 ・学習上の留意点 ・評価方法 ・授業項目 (各回の具体的な学修内容) 	
○シラバスの作成に際して各教員は、前年度の授業内容や授業の進行が適切であったか振り返り、見直しを行いながら、翌年度のシラバスに反映・改善している。また、ロシア語会話・文法・講読など、次年度にも共通する科目については、次年度に担当する教員との間で、授業の進度や学生の理解度などの情報を共有し、シラバス 作成の際の参考材料としている。	
授業計画書の公表方法	https://www.fesu.ac.jp/about/syllabus/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
○授業科目の履修は、原則として各期末に行う試験に合格することによって認定している。また、試験を受験するには原則、授業時間数の5分の4以上の出席が必要である。ただし、出席がこれに満たない場合は、教授会で受験許可の可否を決定している。	
○各教科の評価については、シラバスに記載しているとおりである。	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>○成績評価の方法は、出席率や授業内で実施した小テスト、提出物、期末試験をもとに行う。各教科の詳細についてはシラバスに記載しているとおりある。</p> <p>○成績評価の基準は、「5、4、3、2、1」で行うが、「2、1」は本校において不合格としている。</p> <p>○客観的な指標に基づく成績の分布状況は、各学生の成績評価の前・後期の平均値を順位化し、把握している。これを示す資料は別紙のとおり。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>客観的な指標の算出方法.pdf (fesu.ac.jp)</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>○ロシア語科においては、学則に規定された全ての履修が認定されることにより、卒業を認定している。</p> <p>○ロシア地域学科においては、学則に規定された授業科目のすべての履修が認定され、かつ卒業論文を別に定める時期までに提出し、合格を認定され、さらに校長が指定する期日に実施する卒業試験に合格した者の卒業を認定している。</p> <p>○ロシア地域学科が提出する卒業論文は、学内の教員だけでなく、学外の学識経験者に依頼し、客観的な視点から論文評価の実施を行っている</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>卒業の認定に関する方針.pdf (fesu.ac.jp)</p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	専修学校ロシア極東大函館校
設置者名	学校法人 函館国際学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.fesu.ac.jp/wp-content/themes/fesu-theme/assets/pdf/BS4%E5%B9%B4%E5%BA%A6.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.fesu.ac.jp/wp-content/themes/fesu-theme/assets/pdf/%E8%B3%87%E9%87%91%E5%8F%8E%E6%94%AFR4%E5%B9%B4%E5%BA%A6%E6%B1%BA%E7%AE%97.pdf
財産目録	https://www.fesu.ac.jp/wp-content/themes/fesu-theme/assets/pdf/%E8%B2%A1%E7%94%A3%E7%9B%AE%E9%8C%B2R4.pdf
事業報告書	https://www.fesu.ac.jp/wp-content/themes/fesu-theme/assets/pdf/%E4%BB%A4%E5%92%8C%EF%BC%94%E5%B9%B4%E5%BA%A6%E3%80%80%E4%BA%8B%E6%A5%AD%E5%A0%B1%E5%91%8A.pdf
監事による監査報告（書）	https://www.fesu.ac.jp/wp-content/themes/fesu-theme/assets/pdf/R4%E7%9B%A3%E6%9F%B5%E5%A0%B1%E5%91%8A%E6%9B%B8.pdf

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		専門課程	ロシア語科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2152 単位時間/単位	472 単位時間/単位	1768 単位時間/単位	116 単位時間/単位	2356 単位時間/単位	
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		7人	0人	8人	7人	15人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>○シラバスには共通フォーマットがあり、以下の項目を日本語で表示している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目の基本情報（教科名・履修年次・実施学期・時間数・期間） ・担当教員 ・教科書や補助教材・参考書など ・学習到達目標 ・学習上の留意点 ・評価方法 ・授業項目（各回の具体的な学修内容） <p>○シラバスの作成に際して各教員は、前年度の授業内容や授業の進行が適切であったか振り返り、見直しを行いながら、翌年度のシラバスに反映・改善している。</p>

また、ロシア語会話・文法・購読など、次年度にも共通する科目については、次年度に担当する教員との間で、授業の進度や学生の理解度などの情報を共有し、シラバス作成の際の参考材料としている。
成績評価の基準・方法
(概要) ○成績評価の方法は、出席率や授業内で実施した小テスト、提出物、期末試験をもとに行う。各教科の詳細についてはシラバスに記載しているとおりある。 ○成績評価の基準は、「5、4、3、2、1」で行うが、「2、1」は本校において不合格としている。
卒業・進級の認定基準
(概要) ○ロシア語科においては、学則に規定された全ての履修が認定されることにより、卒業を認定している。
学修支援等
(概要) ○テルキ対策講座の開設 ○放課後補習の実施

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
2人 (100%)	1人 (%)	1人 (50%)	1人 (50%)
(主な就職、業界等) ホテル			
(就職指導内容) 個別面談・就職ガイダンス・インターンシップ研修・キャリアコンサルタントによる出前講座			
(主な学修成果(資格・検定等)) ロシア語検定、テルキ			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
5人	1人	20%
(中途退学の主な理由) 自己都合		
(中退防止・中退者支援のための取組) 全学生対象の個人面談		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		専門課程	ロシア地域学科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	2021年度以降入学者 4458 単位時間/単位	730 単位時間 /単位	3488 単位時間 /単位	276 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			4494単位時間/単位				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	2020年度以前入学者 4584 単位時間/単位	730 単位時間 /単位	3614 単位時間 /単位	276 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間/ 単位
			4620単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160人		13人	0人	8人	7人	15人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>○シラバスには共通フォーマットがあり、以下の項目を日本語で表示している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目の基本情報（教科名・履修年次・実施学期・時間数・期間） ・担当教員 ・教科書や補助教材・参考書など ・学習到達目標 ・学習上の留意点 ・評価方法 ・授業項目（各回の具体的な学修内容） <p>○シラバスの作成に際して各教員は、前年度の授業内容や授業の進行が適切であったか振り返り、見直しを行いながら、翌年度のシラバスに反映・改善している。</p> <p>また、ロシア語会話・文法・購読など、次年度にも共通する科目については、次年度に担当する教員との間で、授業の進度や学生の理解度などの情報を共有し、シラバス作成の際の参考材料としている。</p>
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>（概要）</p> <p>○成績評価の方法は、出席率や授業内で実施した小テスト、提出物、期末試験をもとに行う。各教科の詳細についてはシラバスに記載しているとおりある。</p> <p>○成績評価の基準は、「5、4、3、2、1」で行うが、「2、1」は本校において不合格としている。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>（概要）</p> <p>○ロシア地域学科においては、学則に規定された授業科目のすべての履修が認定され、かつ卒業論文を別に定める時期までに提出し、合格を認定され、さらに校長が指定する期日に実施する卒業試験に合格した者の卒業を認定している。</p> <p>○ロシア地域学科が提出する卒業論文は、学内の教員だけでなく、学外の学識経験者に依頼し、客観的な視点から論文評価の実施を行っている。</p>
<p>学修支援等</p> <p>（概要）</p> <p>○テルキ対策講座の開設</p> <p>○放課後補習の実施</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
6人 (100%)	0人 (%)	3人 (50%)	3人 (50%)
(主な就職、業界等) ホテル、機械メーカー			
(就職指導内容) 個別面談・就職ガイダンス・インターンシップ研修・キャリアコンサルタントによる 出前講座			
(主な学修成果（資格・検定等）) ロシア語検定、テルキ			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
19人	2人	10.5%
(中途退学の主な理由) 健康上の理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) 全学生対象の個人面談		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
ロシア語科	150,000円	700,000円	40,000円	休学期間中の授業料は原則として2分の1
ロシア地域学科	150,000円	700,000円	40,000円	休学期間中の授業料は原則として2分の1
	円	円	円	
	円	円	円	
修学支援（任意記載事項）				
石館奨学金（年間成績優秀者1~2名に17.5万円または35万円を給付）				
留学奨学金（留学実習渡航費および海外インターンシップの費用等年間各4名まで給付）				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.fesu.ac.jp/wp-content/themes/fesu-theme/assets/pdf/R4%E5%AD%A6%E6%A0%A1%E8%A9%95%E4%BE%A1%E8%A1%A8%EF%BC%88%E9%9B%86%E8%A8%88%E7%B5%90%E6%9E%9C%EF%BC%89.pdf		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
<p>構成：学校法人函館国際学園の理事・評議員</p> <p>項目：教育方針・学校経営・教育活動・学修成果・学生支援・教育環境・学生の受入募集・財務・法令等の遵守・学校評価・社会貢献・地域貢献</p> <p>活用方法：自己評価の結果について、客観性・透明性を図り、連携協力による学校運営の改善を図る。</p>		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
理事	R4. 11. 27～R7. 11. 26	元会社役員
理事	R4. 11. 27～R7. 11. 26	会社役員
理事	R4. 11. 27～R7. 11. 26	会社役員
理事	R4. 11. 27～R7. 11. 26	団体職員
理事	R4. 11. 27～R7. 11. 26	団体役員
理事	R4. 11. 27～R7. 11. 26	元教諭
評議員	R4. 11. 27～R7. 11. 26	卒業生
評議員	R4. 11. 27～R7. 11. 26	会社役員
評議員	R4. 11. 27～R7. 11. 26	会社役員
評議員	R4. 11. 27～R7. 11. 26	団体役員
評議員	R4. 11. 27～R7. 11. 26	元会社役員
評議員	R4. 11. 27～R7. 11. 26	元教授
評議員	R4. 11. 27～R7. 11. 26	ロシア連邦外交官
評議員	R4. 11. 27～R7. 11. 26	会社役員
評議員	R4. 11. 27～R7. 11. 26	団体役員
評議員	R5. 5. 24～R7. 11. 26	公務員
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.fesu.ac.jp/wp-content/themes/fesu-theme/assets/pdf/R4%E5%AD%A6%E6%A0%A1%E8%A9%95%E4%BE%A1%E8%A1%A8%EF%BC%88%E9%9B%86%E8%A8%88%E7%B5%90%E6%9E%9C%EF%BC%89.pdf		

第三者による学校評価（任意記載事項）

c) 当該学校に係る情報

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法）

<https://www.fesu.ac.jp/>